

編集後記

このたびお茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報『ジェンダー研究』第15号が無事、刊行の運びとなった。執筆者をはじめ、査読者の先生方、編集、校正、発行にご協力をいただいた多くの皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げたい。

本号はこれまでと若干構成が異なり、特別寄稿として、2011年7月9日にお茶の水女子大学で開催された国際シンポジウム「アジアにおけるグローバル化とジェンダーの現在——マクロ経済と社会構築」報告論文による特集を組んでいる。ジェンダー研究センターとUNDP（国連開発計画）共催による本シンポジウムは、当センターが運営に携わったUNDP集中セミナー「ジェンダーとマクロ経済に関する能力構築」（7月4日～16日 於国立女性教育会館）のパブリック・フォーラムとして開催されたものである。シンポジウムでは、グローバリゼーション下の金融・生産・再生産の新局面、環境、生活保障、ODAを焦点に、マクロ経済政策におけるジェンダー課題を取り上げると同時に、東日本大震災後の日本社会の対応へのジェンダー視点からの鋭い問題提起がなされた。2008年秋以降のグローバルな経済危機、そして東日本大震災以後の混迷状況に対応した知見を示している点で時宜を得たものであると同時に、マクロ経済・政策領域におけるフェミニスト研究の最前線を示すものであった。基調講演のダイアン・エルソン氏をはじめ、マリア・フローロ氏、大沢真理氏、マリナ・デューラーノ氏、池田恵子氏、竹信三恵子氏の各氏より、本号企画のためにご協力いただいたことに感謝申し上げます。

投稿論文としては、多文化主義をめぐるフェミニスト議論をカナダの文脈から検討した意欲的な論文を掲載している。厳正なる審査を経た結果、投稿論文としての採用は1本のみとなったが、次号ではより多くの力作を掲載できればと思う。

研究プロジェクト報告では「頼梅颯」研究会、そして成果刊行プロジェクトでは「女性とたばこ」研究会という、ジェンダー研究センターを拠点とした共同研究の報告であり、長年にわたる綿密な研究成果を紹介している。また、耳目に接することが少ないと思われる、理工系の学会における男女共同参画推進に関する動きを、「動向紹介」として取り上げている。

書評欄では、日本文学、中国研究、視覚表象、スペイン史、日本政治におけるジェンダー研究の最新の学術図書5冊が、学内外の研究者により論評されている。5冊のうち、磯山久美子、および大橋史恵の著書は、それぞれ本年度の女性史学賞、および山川菊栄賞を受賞した。ともに本学大学院人間文化研究科に提出された学位申請論文をもとにした著作であり、両者の受賞は、ジェンダー研究センターにとって大変栄誉な出来事であった。『女が国家を裏切るとき』の著者管聡子氏は、お茶の水女子大学人文学部教授として当センターおよびCOEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」の研究プロジェクトに多大な貢献をされたが、本書の刊行直後に惜しくも急逝された。ここに深く哀悼の意を表したい。

今号は、特集「アジアにおけるグローバル化とジェンダーの現在」において、進行しつつあるグローバリゼーション——災害の影響も含む——におけるジェンダー課題を示し、投稿論文、研究プロジェクト報告、成果刊行プロジェクト、書評、そして動向紹介では、多方面におけるジェンダー研究の最新の成果を掲載することができた。本号の刊行にご尽力いただいた方々にあらためて感謝申し上げたい。

編集事務局 徐 阿貴（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報
『ジェンダー研究』

第15号 編集委員会

委員長	足立真理子	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター長・教授
	森 義仁	人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授
	天野 知香	人間文化創成科学研究科文化科学系准教授
	荒木美奈子	人間文化創成科学研究科文化科学系准教授
	元岡 展久	人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授
	館 かおる	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター教授
	申 琪榮	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター准教授
事務局	徐 阿貴	ジェンダー研究センター研究機関研究員

平成24年3月18日 印刷
平成24年3月21日 発行

編集・発行 **お茶の水女子大学ジェンダー研究センター**
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845
E-mail igsoffice@cc.ocha.ac.jp
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 **株式会社コームラ**
Tel 058-229-5858(代) Fax 058-229-6001
